

1. 第11回 EC センター総会報告

6月28日（金）15時半より、JEITA 会議室にて第11回 EC センター総会が開催されました。開催にあたり、来賓のご挨拶を頂戴しました。

泉 和 夫 様 一般財団法人 日本情報経済社会推進協会



議事次第に沿い、平成24年度事業報告、決算および平成25年度事業計画、予算の審議と承認が行われました。また、平成25年度役員は下記の方々を選出いたしました。

会 長：米谷 信彦 氏

アルプス電気（株）専務取締役
管理本部長

副会長：大森 紳一郎 氏

（株）日立製作所 執行役常務
調達統括本部長

副会長：高田 範雄 氏

一般社団法人 電子情報技術産業協会 理事

なお、平成25年度事業計画における重点項目は以下のとおりとなっています。

1) 業際化への対応

- ・今年度も業際化に向けた活動方針に基づき、自動車業界との業際化に向けた検討を継続する。
- ・JEITA 企業が対応を迫られている責任ある鉱物調達に係わるデータ転送の標準化について、責任ある鉱物調達検討会と連携して検討を進めていく。
- ・新たな技術情報交換モデル標準に基づき、企業間で AIS などの環境情報を交換する基盤を構築するとともに、AIS 作成支援ツールの改訂と活用促進を図る。

2) 国際化対応

- ・ EDA 標準について、米 EIA / IBIS フォーラムと連携し日米両国で IBIS サミット会議を開催する。
- ・ IEC（国際電気標準会議）への ECALS 辞書の提案活動を推進する。
- ・ IPC（米国電子回路協会）データ転送標準化委員会への参加と標準規格案の検討を行う。
- ・ 会員企業の海外拠点での ECALGA 実装を推進する。
- ・ 海外サプライヤとの ECALS 技術情報交換の実用化検討に着手する。
- ・ 東南アジア地域の EDI 実態調査に着手する。

3) ECALGA 実用化の推進

- ・ 新たに標準化した技術情報交換モデルによる、ECALS 情報や環境情報を BtoB で交換するモデル企業を選定し実用化拡大を推進する。
- ・ 各種技術情報を海外企業から収集するためのプロモーション活動を行う。
- ・ Web サイトに公開した IBIS Quality Framework、および SI シミュレーション（信号波形品質シミュレーション）のための IBIS の普及促進に努める。
- ・ 正規標準化した海外通常取引モデルの普及促進に努める。
- ・ ECALGA ユーザ企業個々が、自社環境に合った EDI 取引のビジネスモデルを組み立てるための参考となるビジネスガイドの拡充に努める。

4) 中堅・中小企業への対応

- ・ Web-EDI 認定事業（Web-EDI ガイドライン準拠、あるいは適合）の推進、および ASP 事業者に対する ASP 間運用標準ガイドラインの実装推進を行う。
- ・ 中小企業でもシステムを意識することなく容易に通信が可能な「JEITA 共通クライアント」の普及促進を行う。

5) 標準の維持管理体制の整備

- ・ ECALGA 標準を永続的に維持管理していくため、ECALGA 辞書の構造や基本的規約を分かり易く解説した「ECALGA 標準ガイド」を整備する。

2. 技術情報交換（ECALS）実証実験報告

JEITA / EC センターでは、ECALS の実用化が早急の課題であるとの認識の下、2012年3月 ECALS の実用化を推進するステアリング機関として ECALS 実用化推進 TF を企画部会傘下に設置しました。

2012年度は Phase I として、バイヤ2社（キヤノン、ソニー）とサプライヤ6社（アルプス電気、KOA、TDK、東芝、村田製作所、ルネサスエレクトロニクス）にて B to B による ECALS 辞書に基づく技術情報交換を実施し、成果を検証しました。

ASP 間連携、コンテンツサービス会社経由による新 ECALGA 標準による B to B 技術情報交換の実証実験と各種支援ツール類の検証を併せて実施し、実証実験終了後、参加各社による評価を行い、課題、要望を抽出し対応策をとりまとめました。以下はその概要報告となっております。

1) 実証実験の主な目的

- ① B to B 情報交換の検証
 - ・ ASP 経由、コンテンツサービス経由および ASP 間連携による情報交換機能の検証
 - ・ 新 ECALGA 標準による情報交換の検証
- ② 情報交換のための支援ツール類の検証
 - ・ ECALS データ作成支援ツール
 - ・ JEITA 共通クライアント
 - ・ XML メッセージ入力支援ツール
 - ・ XML / CII 変換ツール

2) 参加企業

- ① バイヤー
 - キヤノン (株)、ソニー (株)、富士通 (株)、三菱電機 (株)
- ② サプライヤー
 - アルプス電気 (株)、TDK (株)、(株) 村田製作所
- ③ ASP
 - 日本電気 (株)、(株) 日立製作所
- ④ コンテンツサービス
 - (株) 豊通エレクトロニクス

3) 実証実験の評価と課題、要望の抽出と今後の活動方針

実証実験評価表を作成し、技術情報交換全体プロセス、ツールの機能、利便性の評価を行い、課題、要望等の抽出をしました。

実証実験評価結果に基づき EC センター関連委員会にて課題・要望等について精査し、必要に応じ各標準書等の記述内容について再度確認を行い、更なる利便性向上のための標準化提案やツールの改修等を行う予定となっております。

3. JEITA / ECALGA 標準2012年度版 2013年7月リリース

JEITA / ECALGA 標準の発行は2010年度版以来、2年ぶりの改訂となりますが、今回も ECALGA ユーザのニーズや利用状況の把握に努め、それらを反映した形での改訂としました。

以下に JEITA / ECALGA 標準2012年度版のリリース概要を記します。

1) 改訂ポイント

- ・ エンジニアリングチェーンでは、従来からの企業間コラボレイティブモデルをすべて廃止とし、これらのモデルを全て包含できる「技術情報交換モデル」を新たに策定しました。
- ・ 「技術情報交換モデル」は、サプライチェーンと同様に、XML タイプに加えて CII タイプを利用したデータ交換を可能としました。

- ・サプライチェーンでは、ユーザ間での BPSS 制御を前提にした「企業間制御型プロセスモデル（先端モデル）」を、当モデルのユーザ利用状況と企業内システムの現状を踏まえて廃止することにしました。
- ・XML タイプの辞書では、CII タイプとの互換性を保つために情報区分コードの項目を追加しました。
- ・サプライチェーンを中心に用語の統一、書式の統一による見易さの向上を図りました。

2) 発行日

2013年7月

3) 各編の概要

| 分冊 | 編数 | 編名 | 各編の掲載内容 |
|----|------|-----------------|--|
| 1 | I | 解説編 | 標準の位置け、概要、変更点の説明 |
| | II | 技術編 | システム、ネットワークに関する説明 |
| | III | 資料編 | EDI 取引基本契約、TPA 一覧等 |
| 2 | VI | 業務モデル編 (ECM) | 技術情報交換ビジネスモデル |
| | IV | ビジネス辞書編 (ECM) | 技術情報交換ビジネスドキュメント (CII タイプ、XML タイプ)、データ項目定義等、ECALS 辞書、環境辞書の概要説明 |
| 3 | VI | 国内業務モデル編 (SCM) | 国内商取引情報交換ビジネスモデル集 |
| 4 | VII | 国内ビジネス辞書編 (SCM) | 国内商取引情報交換ビジネスドキュメント (CII タイプ、帳票・ラベル、XML タイプ)、データ項目定義等 |
| 5 | VIII | 海外業務モデル編 (SCM) | 海外商取引情報交換ビジネスモデル集 |
| | IX | 海外ビジネス辞書編 (SCM) | 海外商取引情報交換ビジネスドキュメント (CII タイプ、XML タイプ)、データ項目定義等 |

4) 英語訳版、中国語訳版のリリース

海外業務モデル編、海外ビジネス辞書編の英語訳版、中国語訳版をそれぞれ Ver-01としてリリースいたします。